第12講

社会科学系(5)
「安心」社会の意義

チャプター1
資料読解

生徒メモ欄

1　さて,農村のような閉鎖社会の中で生活をしている人たちは,村の中にいるかぎりは,たしかに「安心」な生活を送れるかもしれません。しかし,この人たちがいったん「よそ者」ばかりの社会に行ったら,どのような思いをするのでしょうか。

2　そこで,みなさんに少し想像してもらいたいのですが,もし,山深い農村に住む人が都会に出て仕事をするようになったら,その人は都会の生活にどのような感想を抱くと思いますか?

3　きっと,田舎からいきなり都会に出てきた人にとっては,都会の生活は不安で心配事だらけに違いありません。

4　なぜなら,それまで「安心」を与えてくれた,村の暮らしの仕組みは都会には存在しないからです。

5　いろんな人がたえず出入りしている都会のような社会には,おたがいを監視しあい,何か悪事や非協力的なことをしたときに,かならず制裁を加えるようなシステムはありません(法はあっても,法による正義がかならず実現するとは限りません)。

6　田舎から都会にいきなり出てきた人にとって,都会の生活はまさに危険だらけで油断のならないものに見えるでしょう。

7　たとえば,普通のお店に買い物に行くにしても,値段をふっかけられているのではないかと疑心暗鬼になってしまうでしょうし,また,たまたま道に迷っているところを親切に案内してくれた人がいても,「ほんとうは何か下心があるのでは」と思ってしまったりするかもしれません。また,部屋を貸してくれる大家さんにしても,ほんとうは自分のなけなし

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の財産を狙っているのではと思えてくるでしょう。

8　つまり，彼にとっての都会生活とはまさに「人を見たら泥棒と思え」の連続になってしまうというわけです。

9　しかし，彼がそう思ってしまうのは無理もないことです。

10　そもそも農村での暮らしでは，相手を信頼すべきかどうかを考えなければいけない局面はほとんどありませんでした。大事なのは，その人が身内であるか否かだけであり，身内ならば「安心」であり，そうでない人は「泥棒」であると思っておけば間違いない。それが集団主義社会に適応した生き方であったわけです。

11　これに対して，都会での生活においては，相手がはたして信頼に足りるかどうかをつねに考えていなければならないわけですが，もし，この農民が「身内かどうか」という判断基準だけで相手に接していたとすると，どうなるでしょう。

12　言うまでもないことですが，彼にとって都会の人々はみな「身内」などではないのですから，誰とも協力関係は築くことはできません。

13　そうすれば仕事を手に入れることはもちろん，お店でものを買ったりすることさえ不安に感じてしまうわけですから生活することは絶望的にむずかしくなります。

14　結局，都会の生活に適応していこうとすれば，まず自分の頭で，相手が信頼に足りる相手なのかどうなのかを考える習慣を作らなければいけないというわけなのです。

15　農村のような集団主義社会とは本質的に「信頼」を必要としない社会であり，逆に都会のような，いわば個人主義的な社会とは本質的に「信頼」を必要とする社会である——一見，パラドックスのように見えますが，このことが分かれば「和の民族」であるはずの日本人が容易に他者を信じない，その理由が分かってくるというものでしょう。さらに言えば，他人との共同作業において，日本人が他者を信頼できずに一匹狼の道を選ぶというのも納得できるはずです。

16　すなわち，私たち日本人は「和の心」を持ち，他人と協調する精神を持っていると言われてきたわけですが，そうした協調的な行動は誰に対しても行われるものではなくて，あくまでも相手が「身内」であるときに限られていたというわけです。

17　日本人は，相手が自分の身内であれば，それだけで相手を無条件に信用していいと考えるのですが，そうでない「よそ者」に対しては最初から「泥棒ではないか」と警戒感を抱いてしまいます。集団主義社会に生きている日本人にとって

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

「よそ者」とは自分を騙し，利用しようと考える油断のならない存在というわけなのです。

……中略……質問紙実験において，日本人の多くが「たいていの人は信頼できない」「他の人たちは，隙あらばあなた（回答者）を利用しようとしている」「たいていの人たちは自己中心的である」と答えたのは，まさに「よそ者」を念頭に置いた答えであったということができるでしょう。

18 このような信念があるからこそ，先ほどの実験のように未知の相手と共同作業を行なうことになると，日本人は相手と協力行動をすることをよしとせず，たとえ損をすることになったとしても，一匹狼になろうとするわけです。未知の相手，すなわち「よそ者」と一緒に作業をすることは，日本人にとってはリスクの高い行為に思えてしまうので，そのリスクを負うくらいならば一人で作業したほうがいいと判断してしまうのです。

19 さて，「身内」と「よそ者」を峻別（しゅんべつ）する，こうした集団主義社会の行動原理は，ともすれば「閉鎖社会」という言葉を連想させ，けっしていい印象を与えないものであるのは間違いないでしょう。

20 しかし，集団主義社会であるからといって，それがすべてよくないものであると否定的に捉えるのは，正しいものの見方だとは言えません。

21 なぜならば，戦後日本が「奇跡」とも評される高度経済成長を成し遂げることができたのは，まさに日本社会が集団主義社会であったからに他ならないからです。

22 そもそも集団主義社会が悪であるというのであれば，日本社会はこれほどまでの繁栄をできるはずもありません。いやそれどころか，戦後日本経済が奇跡的な発展を遂げることができたのは，「安心」を保証する集団主義社会のメリットを日本人が最大限に活かしたからであると言っても過言ではありません。

23 では，集団主義社会のメリットとは何か――それは社会のシステムが「安心」を保証してくれるということに他なりません。

24 この「安心社会」のメカニズムがあるおかげで，日本人は相手から裏切られる心配をすることなく，経済活動に専心できた。だからこそ，他の国よりもずっとパフォーマンスのいい経営を行なうことが可能になったというわけなのです。

25 たとえば，……中略……「アメリカは契約社会だが，日本人は契約書などなくてもちゃんと約束を守る」という話が

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しばしば「日本文化の美点」として語られてきました。

26　いったいなぜ日本人は契約書がなくても，ビジネス上の約束がかならず守られると確信できていたのでしょうか——その理由は今さら言うまでもないでしょう。

27　それは日本人が正直で誠実であったから約束を守ったというわけではありません。日本という集団主義社会の仕組みが，契約書に代わって「安心」を保証してくれていたからなのです。

28　すなわち日本のような閉鎖的な社会の中では仕事相手を裏切るような行為をすれば，二度とその相手とは取引できなくなりますし，また，あっという間に悪い評判が広がります。そうなれば，その後のビジネスにおいて損をすることになる。だからこそ，日本のビジネス社会では，たとえ口約束であっても相手が身内であるならば，その契約はかならず守られると信じることができたわけです。

29　これに対して，アメリカのような開放型の社会では，そうした安心のメカニズムは存在しません。したがって他人と一緒に仕事をする際には，詳細な契約書をいちいち作らなくてはならないのは当然のこと，相手に裏切られるリスクをつねに考えて行動せねばなりません。それは当然のことながら，コストにもはねかえってきます。万が一，契約が守られない場合の損失をつねに想定しなければならないのですから，この点においても，最初からリスクを心配しないで済む日本企業のほうが欧米企業よりもアドバンテージを得る結果になったというわけです。

30　この契約書の話がいみじくも象徴しているように，戦後の日本経済はケイレツ，株の持ち合い，元請け＝下請け関係，さらには護送船団方式といった，さまざまな集団主義的ネットワークを活用することによって「奇跡の経済成長」を実現させたのでした。

31　集団主義社会がもたらす「安心」の保証があるおかげで，日本の企業はビジネス相手の裏切りも敵対的買収も心配する必要もなく，経営に専念することができました。また，そのおかげで大幅にコストもカットすることができ，価格競争力をつけることができたわけです。

32　また，農村社会でみんなが農作業に一致団結できたように，たとえ相手がライバル企業であっても協力体制を組むことが可能であったので，同業者の間で談合が行なわれて，過当競争による足の引っ張り合いが起きませんでした。また，対外的にも業界団体が一致結束し，行政とがっちりス

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

クラムを組んで「見えない貿易障壁」を張り巡らせたりしたおかげで，諸外国との厳しい輸出競争に勝ち残ることもできたのです。

33　こうして見ていくと，戦後の日本経済は集団主義社会の特性をまさにフルに活用することによって，「奇跡の復活」を成し遂げたということがお分かりいただけるのではないでしょうか。

出典：山岸俊男『日本の「安心」はなぜ，消えたのか』（集英社インターナショナル，2008年）（出題に際して，字句の一部を変更し，文章の一部と見出しを省略した。）

（2014年度　北海道大学　法学部　後期）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

本文では，高度経済成長期などにおける従来の日本社会が「安心」を保証する社会であったことが強調されている。それでは，これからの日本社会は「安心」を保証する社会であり続けるのか，それとも異なった社会になっていくと考えられるか。また，今後の日本の経済が発展を続けるためには日本社会がどのような社会になっていくのが望ましいと考えられるか，筆者の議論を踏まえて，あなたの意見を述べなさい。（500字以内）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

500

(　　　　　字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

ⒸRECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

　これからの日本社会は、コロナ禍において人と関わることが減ったことで、「安心」を保証する社会の仕組みが崩れていくのではないかと考える。

　長年「安心」を保証されている場所で生活している中、最近はその「安心」を逆手にとり悪用する人が増えてきたように感じる。昨今、直接人と接する機会が減り、授業や友達との会話など、リモートで何かをすることが増えてきた。便利な反面、直接対面せずに物事を決めるのは、多少不安な部分もある。友達同士の約束ならばよいが、それが仕事の面となると不安が増すのではないだろうか。

　「安心」というのは、対面で取引をするからこそ成り立つものだ。よって、これからは、日本でも裏切られるリスクを考えて行動しなければいけなくなると思う。

　今後、日本の経済が発展を続けるためには、やはり「安心」が保証された社会であり続けるのが良いと思う。リモートでのやりとりは今後も増えていくだろう。その時に、対面してないからやらないというのではなく、困ったときは互いに助け合うのがよいと思う。助け合い、協力することで日本の経済を発展させてきたので、これからもそうするべきだ。

(500字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

ⒸRECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

私はこれからの日本の社会は「安心」を保証し続ける社会であり続けて、さらにその「安心」が保証されるような範囲が広がっていくと考える。ただし、必ずしもそれは良いものであるとは限らない。

文中の筆者の主張を踏まえて、私は日本の集団主義社会的な側面が「安心」をもたらしているのは、その集団を乱すような行動をしたときに与えられるペナルティのとらえ方にあるのだと思う。一人一人、ペナルティが大きいと考えるからこそ集団が滞りなく存続できるように行動しようとするのである。集団社会が「安心」をもたらすということは集団の外に出ることの「不安」をもたらすということでもあるのではないだろうか。つまり、自分が集団の中にいるのだという安心感のために他者を監視し、自分自身を監視しなければならなくなるのだと思う。

現在は情報化が進んだことによって遠方の人を監視することも、ペナルティを与えることも簡単になった。これからの日本の経済が発展を継続していくためには集団を成立させるために監視することだけではなくその集団内での少数派や集団の外に目を向けて本当に良いものをみんなで探していく必要がある。

(500字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

観点	項目	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

ⒸRECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。